

# 係り結び（係助詞）確認テスト（古典文法） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

---

問1 係助詞「ぞ」／結びの語「ける」は連体形。係助詞「ぞ」を受けて、本来終止形「けり」となるところが連体形「ける」で結ばれている。

問2 係助詞「なむ」／結びの語「美しき」は連体形。「なむ」を受けて、形容詞「美し」が連体形「美しき」で結ばれている。

問3 結びの語「見え（ね）」の「ね」、すなわち打消の助動詞「ず」の已然形「ね」。「こそ」を受けて已然形で結ばれている（「道こそ見えね」＝道は見えない、の意）。

問4 二つとも疑問。「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」＝「(昔と同じ) 月ではないのか、春は昔の春ではないのか」と疑い嘆く疑問（詠嘆を含む）。いずれも結びは連体形（「あらぬ」「ぬ」）。

問5 係助詞「か」／結びの語「近き」は連体形。「か」を受けて、形容詞「近し」が連体形「近き」で結ばれている。

問6 係助詞「ぞ」／「らむ」は連体形。「ぞ」を受けて、現在推量の助動詞「らむ」が連体形「らむ」で結ばれている（終止形と同形だが、係り結びにより連体形と判断する）。

問7 「聞こゆる」は連体形。終止形「聞こゆ」が、係助詞「なむ」を受けて連体形「聞こゆる」となり、語尾が「ゆ」から「ゆる」に変化している（下二段活用の連体形）。

問8 結びの語「惜しけれ」は已然形。「こそ」を受けて、形容詞「惜し」が已然形「惜しけれ」で結ばれている。

問9 疑問。「都へや帰るべき」＝「都へ帰るべきだろうか」という疑問を表す。

問10 係助詞「ぞ」／結びの語「ける」は連体形。「ぞ」を受けて連体形「ける」で結ばれている。

問11 「知れ」は已然形（四段動詞「知る」の已然形）。係助詞「こそ」を受けているため、結びが已然形になっている。命令形と同形だが、ここでは「こそ」の結びなので已然形と判断する。

問12 （例）このようなことがこの世にあるだろうか、いや、ありはしない。

問13 結びは「し」（過去の助動詞「き」の連体形）。「露ぞ消えにし」は「消え（下二段連用形）＋に（完了「ぬ」連用形）＋し（過去「き」連体形）」で、「し」が係助詞「ぞ」を受けた結びにあたる。したがってこの文では結びがきちんと現れており、結びの省略は起きていない（係り結びは完結している）。「消えにしける」のように下に「ける」を補うことはできない。

問14 反語。「いかでか都を忘れむ」＝「どうして都を忘れようか、いや忘れはしない」という反語を表す。

問15 （例）どうして都を忘れることがあろうか、いや、忘れはしない。

問16 (1) 強意 (2) 疑問 (3) 強意。

※「ぞ・なむ・こそ」は強意、「や・か」は疑問または反語。⑤「いずれの山か天に近き」は「どの山が天に近いのか」という疑問。

問17 「係り結びの流れ（消去）」とは、係助詞があるのに、文が言い切られずに下に続いたり、接続助詞などが付いたりして、本来あるべき結び（連体形・已然形）が現れず、係り結びが成立しないまま流れてしまう現象のこと。

問18 「ぞ・なむ・や・か」の結びは連体形、「こそ」の結びは已然形。

問19 (ア) 咲く。「ぞ」を受けるので連体形。動詞「咲く」（四段）の連体形は「咲く」。(イ「咲き」は連用形、ウ「咲け」は已然形・命令形で不適。)

問20 (イ) め。「こそ」を受けるので已然形。意志の助動詞「む」の已然形は「め」。(ア「む」は終止・連体形、ウ「まし」は別語で不適。)

問21 (イ) ある。「か」を受けるので連体形。ラ変動詞「あり」の連体形は「ある」。(ア「あり」は終止形、ウ「あれ」は已然形・命令形で不適。)

問22 強意。